

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 12 号:2010 年 8-9 月期】

- * 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済発展の実績

上半期輸出が 14%の伸び。

上半期のウズベキスタンの外国貿易額は 98 億ドルを上回った。輸出が 61 億ドル、輸入が 36 億ドルである。これは昨年同期比 0.8%の減少。

上半期の貿易黒字は 25 億 4,500 万ドル。このうち、CIS 諸国との貿易黒字は 10 億 5,200 万ドル、その他の諸国との貿易における黒字が 14 億 9,300 万ドルだった。

ウズベキスタンと CIS 諸国の貿易額は 4.4%減で 39 億 5,300 万ドル。その他の諸国との貿易額は 1.9%増で 58 億 7,100 万ドル。

上半期のウズベキスタンの主要輸出品目はエネルギー担体で、輸出額の 25.1%を占めた（前年同期の比率は 37.2%）。同じく、綿繊維が 10.1%（10.7%）、サービスが 9.5%（9.3%）、鉄鋼と非鉄金属が 6.9%（4.5%）、食料品が 6.5%（4.5%）、化学製品が 4.7%（5.2%）、機械設備が 4.6%（2.6%）だった。

主要輸入品目は依然として機械設備が 45.6%（57.1%）、化学製品が 14.8%（10.9%）、食料品が 11%（9%）、鉄鋼と非鉄金属が 7.9%（6.4%）、サービスが 5.2%（4.3%）、エネルギー担体と石油製品が 3.3%（3.1%）である。

ウズベキスタンの上半期 GDP の 41.1%（昨年同期は 40.9%）は小企業が生産。

これにより 849 万 9,500 人、すなわち全就業者の 74%の雇用が確保された。小企業による上半期の工業生産は 2 兆 5,833 億スム（16 億ドル）。これは共和国のこの期間の全工業生産の 16.7%を占める（昨年同期比 122.1%）。また、小ビジネスの分野で上半期に 1 兆 9,696 億スム（12 億ドル）の投資が実施された（国全体の実施済み投資総額の 27.7%）。

投資政策

カリモフ・ウズベキスタン大統領の命令により 2011-2015 年の工業発展プログラム策定に取り組む特別グループを設置。

R・アジモフ第一副首相がグループの責任者になった。このプログラムが反映するこ

とになるのは、工業における構造改革拡充の基本方向。これらの方向はウズベキスタンの優先部門の先行的発展と、付加価値が高く現代的な競争力ある製品の生産を目指している。エネルギー産業、非鉄冶金工業、石油化学、化学工業、繊維産業、機械製造業、自動車工業、製薬工業、農産物の高品質・高度加工、建材生産の先行発展に特別の関心が向けられることになる。

2010 年末までにウズベキスタン政府は 2011-2016 年度の地質調査プログラムを承認する。

同プログラムはまた、地質調査隊、班、その他の組織の物質的・技術的基盤の更新と強化に関する措置を定めることになる。さらに今年 10 月末までに国家地質・鉱物資源委員会は、非鉱石有用資源を埋蔵する鉱区の利用免許交付手続きに関する新しい規定の草案を政府の承認のために提出する。

今日、ウズベキスタンでは 118 種類の有用鉱物資源の 1,800 を超す鉱床と約 1,000 の有望な露頭・湧出が発見されている。そのうち、65 の鉱床は開発中。1,500 の鉱床が探鉱済みだが、この中には 188 の石油、ガス、コンデンセート鉱床、48 の貴金属鉱床、43 の非鉄金属、レアメタル、放射性金属鉱床、5 の鉄鉱床、3 の石炭鉱床、37 の鉱石原料鉱床、22 の鉱山化学原料鉱床、30 の宝石原石鉱床、525 の各種建材鉱床、357 の淡水とミネラルウォーターの地下水鉱床が含まれている。探鉱済み鉱床の 40%以上で開発準備が始まっている。

金融セクター

格付け会社 Moody's Investors Service がウズベキスタンの銀行システム発展予測を「否定的」から「安定的」へ変更。

ムーディーズによれば、ウズベキスタンの銀行はグローバルな金融危機に対して安定性を示し、自己資産の質の安定化を確保し、資本化水準を高めた。今後 12 - 18 ヶ月間、ウズベキスタンが輸出する原料製品の需要回復は、国内消費の増大とあいまって、良好なマクロ経済状況を国内に生み出し、これにより銀行資産の質の問題を取り除くはずである—予測にはこう指摘されている。

エネルギーセクター

「ガスプロム・ザルベジネフチェガス」社(ロシア)がウズベキスタンのウスチュルト台地ジェル・エリアでの試掘中に天然ガスの商業的湧出量をゲット。

ジェル鉱床は 2009 年 5 月に発見。2010 年に井戸の掘削が開始され、完成した。合計湧出量は 1 昼夜に天然ガス約 50 万立方 m に達した。ガスプロムの関係者によると、掘削の成功はウスチュルト台地に天然ガスの商業的埋蔵量が存在することを確認した。

米国の Heneywell 社と「ウズベクネフチェガス」が天然ガススタンドの建設と自動車用ガス設備の製造に関するパートナーシップの重要問題点を調整

双方は交渉で Heneywell がウズベキスタンの天然ガススタンド建設と LP ガスベースの自動車用設備製造の案件に参加する技術的可能性を話し合った。近いうちに双方は、経済特区「ナヴォイ」で実施を計画している他の一連の共同案件について話し合うことを予定している。

「ルクオイル」(ロシア)がウズベキスタン領内で新ガスパイプラインの建設開始を計画

同案件とその他一連の案件については、2008年9月のプーチン・ロシア首相のウズベキスタン訪問の際に合意されていた。この時にはとくに、2008 - 2012年のウズベク・ロシア経済協力計画が調印された。この訪問の枠内でルクオイル首脳部は、今後7年間にウズベキスタンのガス案件に約50億ドルを投資する計画であると声明していた。

Tethys Petroleum Limited 社(チャンネル諸島ガーンジー島登記)が国有持ち株会社「ウズベクネフチェガス」と意向議定書に調印

双方は今後の契約調印のために、ウズベキスタンの一部施設における炭化水素増産の可能性を判定する共同調査の実施を計画している。Tethys はウズベキスタンの「北ウルタブラク」鉱床に関して契約を持っており、これに基づく活動をすでに10年間順調に行なっているが、新しい文書もいずれ同様の契約になることが期待されている。なお、現在の契約により、Tethys は採掘される原油と交換で完成石油製品を受け取っており、これを輸出販売している。Tethys Petroleum は現在、カザフスタンとタジキスタンでも活動している。

Petronas と「ウズベクネフチェガス」がボイスン投資ブロックの石油ガス鉱床に関する PS 協定の発効議定書に調印

同文書は Petronas のダト・シャムスル・アズハル・アッバス会長兼最高経営責任者のウズベキスタン訪問中に調印された。総額6億6000万ドルの本 PS 協定の枠による天然ガスの定格生産量は、22億立方 m になる可能性がある。2006 - 2008年の期間に Petronas はボイスン投資ブロックの地質調査プログラムに約8,000万ドルを投資した。

ドイツの Bosch GmbH がウズベクネフチェガスとの共同案件作成に関心を表明

ドイツ側が特に関心を示しているのは、経済特区「ナヴォイ」域内における共同案件作成。また、目的を絞った専門家養成の問題にも別個に関心が向けられた。双方はパートナーシップ確立問題をより詳細に研究するための交渉実施について合意した。

その他のセクター

2010 年末までにタシケントに国際物流センターがオープン

「ウズヴェネシトランス」社が目下これを建設している。物流センターはタシケント環状自動車道から 2km、セルゲリ貨物駅から 3km、空港から 7km の地点に出現する。セルゲリ駅から、輸出入貨物とトランジット貨物の主要な流れが通過する国境のケレス駅までの距離は 43km である。物流センターの構内には次のものが設置される一面積各 1 万平方 m の有蓋倉庫 5、コンテナヤード 2、乗用車駐車場 3、貨物自動車駐車場 4、消防署、荷役機械車庫、半地下貯水タンク、ポンプステーション、変電所、並びに鉄道引込線。

ウズベキスタン独立記念日(9月1日)を前に経済特区「ナヴォイ」で初の企業 5 社の開業式を挙行

5 社にはウズベキスタン、シンガポール合弁企業 Telecom Innovations が入っている。同社はデジタル・テレビ受信機年間 5 万台の製造能力を持つ。ポリエチレン管、ポリプロピレン管を製造する 2 社も操業を開始した。さらに合弁企業 UzEgaeCable も入っている。同社は AK「ウズアフトサノアト」と韓国の Egae cs Ltd により設立され、年間 15 万 km の自動車用電線を生産する。もう一社は「マルカズサノアトエクスポート」と UAE の Kefayat General Trading Co.が設立した合弁企業 AgroFresh。同社はイタリア製の超低酸素冷蔵設備を装備し、3,000 トンの果実・野菜を貯蔵可能。

インドの Ashok Minda Group と AK「ウズアフトプロム」が経済特区「ナヴォイ」で自動車パーツを製造する合弁企業 UzMinda を設立する文書に調印

対等の条件で設立されたこの合弁企業は、乗用車用スイッチ類、メーターパネル、キーの年間 25 万個生産能力を持つ。初期段階ではスピードメーター製造ラインを建設する。新合弁企業の操業開始は 2010 年末までに行われる予定。製品の大半は乗用車国産化プログラムの枠により合弁企業 GM Uzbekistan に向けられる。乗用車用スイッチ類・メーターパネル・キー製造工場の総工費は 2,500 万ドル。原料の供給はインドから行われる。Ashok Minda はウズベキスタンの合弁企業をつうじてロシアと CIS 諸国の各種自動車工場の直接納入業者になる意向を持っている。

ナヴォイ採鉱・冶金コンビナート(NGMK)に、ウズベキスタン全域の貴金属、ウラン、これらの随伴有用鉱物の地質調査実施業務を移管

本年末までに実施される予定。同時に、これまでウズベキスタン国家地質・鉱物資源委員会の傘下にあった 2 つの研究・生産センター「貴金属・非鉄金属地質調査」と「ウラン・希土類金属地質調査」は廃止され、これらをベースにして NGMK の機構内

に研究・生産センター「貴金属・ウラン地質調査」が設立される。NGMKの地質調査業務のファイナンスは、国家予算からの資金で行われる。

「ウズアフトサノアト」が費用約 12 億ドルの自動車部門国内化プログラムを実施

同プログラムには、30 件超の投資案件が含まれている。とりわけ、国産化が計画されているのは、エンジン、リヤアスクル、スイッチレバー、ラジエーター、エアコン・換気・暖房システム、マフラーボディ、燃料パイプと燃料ポンプ、装備品、内外装部品の生産である。一連の新生産施設は、税と関税が優遇されている経済特区「ナヴォイ」をベースにして組織することが計画されている。